

平成 29 年度事業報告（概要）

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、採択されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、グループの研究・調査成果を学内で共有する。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループは、代表者を含む正規構成員(3 名～10 名)と協力者(0 名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員 1 名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

1. 自由テーマ。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。
2. 名古屋市交通局連携テーマ、常滑市役所連携テーマ
「学生力を活かした市バス・地下鉄魅力創造プロジェクト」との連携テーマ
「常滑市活性化」に関するテーマ

(4) 助成金額

最大 250 千円／件

(5) 助成件数

最大 10 件

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による審査。

第二次審査 第一次審査合格グループに対して公開ヒアリングを行い、教育支援センター運営会議で決定。

(7) 研究期間

平成 29 年 6 月 1 日から平成 30 年 1 月 23 日まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。

2. スケジュール

4月中旬	公募説明会実施 (4/19.4/20.4/25) 40名参加
4月19日	募集要項公開 ＜参考資料1＞
5月15日	申込締切 申込件数14件(自由9、名古屋市交通局3、常滑市2)
5月18日	第一次審査 自由テーマの14件を選考
5月18日	第一次審査結果発表 合格14件
5月24日	公開ヒアリング(自由テーマ) 13:00～15:00 (H005) 発表7分・質疑応答2分・交代1分 ＜参加者65名＞
5月25日	審査結果をもとに、教育支援センターで原案を作った上で最終選考を行い、10件のグループを採択。
6月1日	研究期間開始
6月6日	採択グループに対する研究助成金取扱説明会 (学務課)
6月28日	学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座 13:00～14:30「社会調査の実践的スキル」松宮 朝准教授(社会福祉学科) ＜参加者40名＞
10月11日	中間発表会 13:00～15:50 (H004) 発表8分・質疑応答3分・交代2分 ＜参加者42名＞
1月24日	研究発表会 ＜参考資料2＞ 13:00～16:00 (H005) 発表10分・質疑応答・2分・交代1分 参加者65名 終了後、交流会・表彰式 ～17:00
1月26日	実施報告書提出

3. 経過の詳細

- 本事業も11年目となり、本事業が学生および教員に浸透した結果、多数の応募件数があった。また、募集開始から研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。
- 応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。
- 助成金額については、すべてのテーマを1グループ上限25万円×10グループとした。

□過去 3 年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	第一次審査合格件数	採択件数
平成 27 年度	13 件	13 件	10 件
平成 28 年度	22 件	17 件	12 件
平成 29 年度	14 件	14 件	10 件

□第一次審査は書類選考とし、応募 14 件中 14 件を合格とした。審査はセンター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の 2 項目について採点した。

なお、地域連携テーマとしては、名古屋市交通局連携テーマに 3 グループ、常滑市役所連携テーマに 3 グループの応募があった。

□第二次審査は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明記の 3 基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の 5 基準を各 4 点で採点、合計 20 点満点で審査員（副学長、学部長、センター長）が採点した。採点結果に基づき 10 件（うち地域連携テーマ 5 件）の採択を決定した。

□学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として、採択されたグループの構成員を対象に、松宮先生(社会福祉学科 准教授)の「社会調査入門」を開催した。

□中間発表会は、参加者 42 名であった。参加者から活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、会場の参加者に各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は 65 名の参加があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。

□採点は「研究内容」、「プレゼンテーション」について、それぞれ 10 点、5 点の合計 15 点満点とした。採点資格は、教職員は 5 グループ以上の発表を聞いた場合、学生は全グループを聞いた場合とした。なお、副学長、各学部長、各センター長の配点は 2 倍（30 点満点）で計算し、得票数（平均得点）により金賞と銀賞を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	鈴木 風紗 (情報科学研究科)	IT を利用した常滑市活性化のための研究
銀賞	山郷 擁子 (社会福祉学科)	年金教育の在り方に関する研究

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、お茶とお菓子を用意して懇親会を行った（後援会からの支援を得た）。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、神山副学長から賞状および副賞の図書カード（金賞 2 万円・銀賞 1 万円）が授与された。

4. 終わりに

本年度の学生自主企画研究には、自由テーマに 8 件、名古屋市交通局連携テーマに 3 件、常滑市役所連携テーマに 3 件、計 14 件の応募があった。

5 月の公開ヒアリングでは、学術的なものや、地域貢献に関する課題解決を目指したものなど、様々な研究計画のプレゼンテーションが行われた。審査の結果、本事業の趣旨に沿い、かつ成果が期待される 10 件が採択された。

10 月の中間発表会では、教員からの質問やアドバイスに加え、参加した学生による活発な質疑応答が行われた。これは、自身の研究だけでなく、他のグループの研究にも高い関心を持ち、切磋琢磨しようという姿勢の現れであると言えよう。

1 月の研究発表会では、各グループが約 8 ヶ月かけて取り組んできた研究成果が発表された。どのグループも、中間発表から着実に研究を進め、各段充実した内容であった。本年度の学生自主企画研究もレベルが高く、学生諸君の自主的な研究への熱意と課題解決に向けた努力の結晶であると評価できるものであった。

この学生自主企画研究は、本学の特色ある教育の取り組みのひとつとしてすでに定着しているが、最近では、学外からも注目されている。1 月に開催された研究発表会には、常滑市環境経済部商工観光課の職員が来聴され、学生の研究にコメント等をいただいた。このように本事業が、学生グループへの研究取組の支援としてだけでなく、学生と地域が共に協働するきっかけとなる枠組みに成長していることは特筆すべきことである。また最近では、異なる学部にも所属する学生で構成されたグループ、外国人留学生、海外にルーツを持つ学生、障害のある学生など、本事業に参加する学生の多様化が著しい。さらに、学部 1 年生のみで構成されたグループが前年度は 2 件、本年度は 1 件採択されており、入学後間もない学生の高い意欲も感じられる。

本事業を進めるにあたり、多くの方々のご支援、ご協力をいただきました。発表会において、有益なアドバイスをしていただいた学長、副学長、学部長、センター長をはじめとする教員の皆様、スキルアップ講座を担当していただいた松宮朝先生、発表会の司会を担当していただいた池田周副センター長に感謝します。また、本事業の実施には、多くの教職員の方々のご協力が不可欠です。とりわけ、事業全般を支えてくださった木下圭一郎学務部長代理、様々な業務に携わってくださった杉浦秀一主任、田島ほな実主事、高橋典子さんをはじめとする学務課の皆さんに深く感謝します。また、学生グループの研究実施にあたり、有益なご助言をしていただいた先生方のサポートがなければ、本事業の継続は不可能です。そして何よりも、自発的に本事業に応募し、学内外で様々な視点から自主的な研究に取り組んだ学生の皆さんのすばらしい成果に惜しみない賛辞をおくります。

教育支援センター長 人見 明宏